

～地域貢献を行うデイサービス「ワーキングデイわかば」の取り組み～

鎌倉市

地域密着型通所介護ワーキングデイわかば

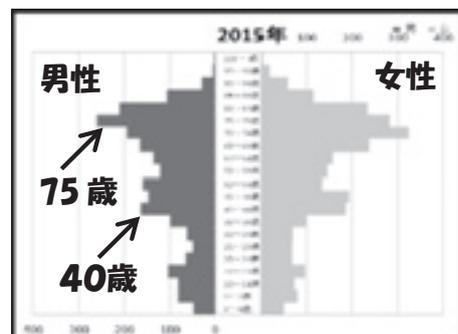
管理者 稲田秀樹

1 はじめに

昭和40年代に宅地開発が行なわれた鎌倉市今泉台地域の平成29年3月時点での高齢化率は46%である。高齢者の多くが後期高齢者となっている。しかし地域に子供がいないわけではなく、2015年の人口構成をみると70歳代の次に40歳代の住民が多いことがわかった。

平成22年12月、この地域で支えあい活動を実践している住民の方の紹介で今泉台4丁目にある北鎌倉台商店街の空き店舗を初めて見学に訪れたのをきっかけに、認知症デイサービス「ケアサロンさくら」を開設した。（「ケアサロンさくら」は平成24年2月に認知症対応型デイサービスとして鎌倉市の指定を受けた。）開設前は、地域住民の方々にも開設準備会議への参加をお願いした。その後、住民の方から資金面以外の協力を頂いた。家庭で使わなくなった食器や衣類、古い家具なども頂いた。それらはありがたい応援のメッセージだった。

ある日、「ケアサロンさくら」の隣の店主が突然病に倒れ、店を廃業することになった。借り手がみつからないまま1年以上が過ぎた。空き店舗の大家さんから「さくら」さんで使ってほしいという話を頂き、新規事業の展開について検討を始めた。温めていたアイデアを知人のケアマネジャーに相談した。新しい事業は若年性認知症の人などのニーズにも答えながら、地域課題の解決の一助にもなるものだった。1ヶ月でワーキングデイサービスの事業計画案を組み上げた。「ケアサロンさくら」の開設から5年が過ぎていた。



今泉台の人口構成 鎌倉市長寿社会のまちづくり資料より



吉ガ沢公園から見下ろす北鎌倉台商店街

2 取り組みの紹介

① ワーキングデイサービス開設の経緯

若年性認知症の人や前期高齢者の認知症の人の中には、役割が欲しい、社会に参加したい、社会の役に立ちたい、といったニーズがあると常々感じていた。高齢化の進んだ住宅地の課題に視点を当てることで、それらを認知症の人たちとともに解決していくことが可能だと考えた。町内会役員に相談したところ、デイサービスに通っている人がボランティアで公園の清掃を行なうなら大歓迎だという返事を頂いた。それが地域貢献を行なうデイサービス「ワーキングデイわかば」

を開設する契機となった。

② 近隣の公園をモニタリング

開設に当たっては、町内の公園に出向いて下見を行なった。草が茂り、滑り台も砂場も汚れている公園もあった。ブランコの鎖の部分が錆び付いているのは子どもが遊んでいない証拠だった。またかつて花壇だった所も草が茂っているばかりだった。町内会の関係者の話では、夏場に水をあげられないので花を植えても枯らしてしまうのだそうだ。こうした地域の課題に、デイサービスのメンバーとともに向き合い、一緒に遊具を磨き、草を刈りながら再び子どもたちで賑わう公園にしたいと思った。

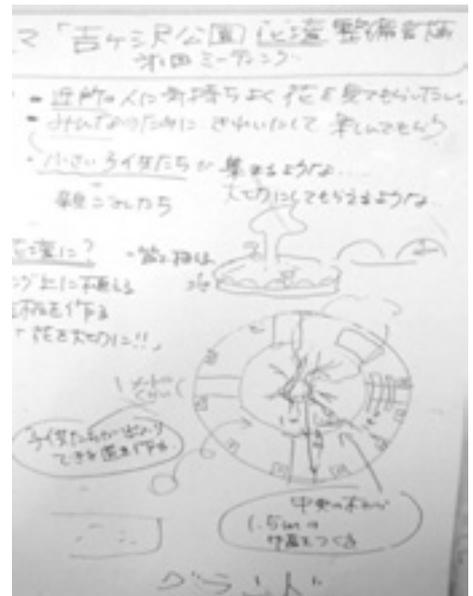


③ 吉ヶ沢公園の清掃活動

平成28年9月1日に「ワーキングデイわかば」を開設した。定員は9名、サービス提供時間を10:30～15:35とした。午前と午後、それぞれ違うフィールドに行き、機能訓練を目的に屋外活動を行なうこととした。最初に行なったのは、デイサービスのある商店街から歩いてすぐのところにある吉ヶ沢公園だった。開設初日から、公園の入り口にある10段の階段を上って清掃に出かけた。階段には手すりがあり、毎日の昇り降りですべて身体機能の維持向上の効果も期待された。



デイサービス開始後は毎日清掃に作業に出ている。その後町内会長から公園がみるみるきれいになってくと言われ、開設2ヵ月後には、町内会主催のまちづくり懇談会で「ワーキングデイわかば」の取り組みについて説明する機会を頂いた。その席で、遊具の清掃や草刈、落ち葉掃きに加えて、花壇の整備を提案したところ、後日あらためて町内会から「花壇を整備してほしい、花苗は町内会が用意する」という話を頂いた。



④ 住民と協働して行った公園の花壇整備活動

花壇の整備計画を作るために、ワーキングデイわかばのメンバーで話し合う場を設けた。その席で、「小さい子どもや親子連れが集まるような公園にしたい」「子どもたちのために花壇の中に通路を作ろう」という意見が出された。メンバーの意見を会議録にまとめ、町内会に提出し花壇整備に着手した。土を掘り返して雑草や木の根を取り除いた。この作業は思った以上に手がかかった。花壇に根を張ったローズマリーの大きな株を掘り起こすのは大変で、近隣の私立高校のボランティア部の生徒に応援を頼んだ。土を耕し、肥料を入れ終わると、花植えは地域の住民と子ども会、町内会、ワーキングデイわかばのメンバーとスタッフとが共同して行った。花壇が完成

ワーキングデイメンバーによる花壇整備計画の打合せメモ



応援に駆けつけた鎌倉学園インターアクト部の生徒たち

すると、きれいになった公園を訪ねてくる親子の姿が目立つようになった。

⑤ 近隣の高齢者宅の草刈剪定の活動

花壇整備の評判もあり、地域の高齢者宅などから、雑草の茂ってしまった庭の草刈の依頼を頂くようになった。地域の高齢者宅も活動場所となり、草刈や剪定に必要な道具もそろえた。きれいにした代わりに謝礼をいただくこともある。いただいた謝礼はメンバーの承諾を得たうえで「わかば基金」として保管し、熊手や作業用グローブなどの用具の購入に当てている。



3 考察

ワーキングデイに来ていることを意義深く感じているメンバーが多い。地域の役に立てることは嬉しいものだ。「さあ、ワーキングに行くぞ!」と、メンバーからそんな声も聞かれる。また地域の住民からは、「あそこに介護施設が出来てよかった」といった声も聞かれるようになった。求人ポスターをガラスに貼っておくと、それを見て地域住民が応募に来るようになった。

要支援や要介護になっても、認知症になっても障害があっても、「活動」と「参加」の機会があることで、役割を持ち、いきいきと自分らしく、やりがいを持って過ごすことができる。そうすることで、認知症の進行を防止し、また要介護状態の改善を図ることもできる。実際に、ワーキングデイ利用後に腰痛が軽減したり、脚力が向上したり、認知症が進行していない事例もある。地域のニーズと介護のニーズがリンクすることで、目に見える効果が表れている。

4 おわりに

平成29年8月、地域住民とともに「今泉台フェスタ2017夏祭り」というイベントを立ち上げ実行委員を務めた。ワーキングデイわかばを「射的場」として提供した。子供や親たちが商店街に集まった。今、介護サービスを展開しながら、若年世代も視野に入れた地域づくりを住民とともに進めている。これからも私たちは地域に根差し、地域と共に在るだろう。

